

# 組合ニュース

発行：2018年4月13日

大分大学教職員組合

TEL・FAX：097-554-7998

E-Mail:oitauu@fat.coara.or.jp

## ＜病院長交渉報告＞職場環境改善で前進！！ コメディカルの手当は病院財政をみながら検討

3月27日に病院長交渉を行いました。組合から委員長他4名、病院から病院長、看護部長、事務部長他3名が出席しました。交渉内容は以下のとおりです。

### ■ 勤務時間等の適正な管理について

抜間キャンパスにおける時間外労働について、特別に延長することのできる時間を附属病院及び臨床系講座に所属する医師又は歯科医師の場合1カ月150時間以内、それ以外の場合1カ月につき100時間以内から可能な限り縮減すること

### －長時間労働縮減のワーキングを作り対応策を検討中－

抜間キャンパスにおける時間外労働の特別条項について、可能な限り縮減することを要請しました。

病院長は、まず、特に時間外労働の多い高度救命救急センターには応援体制を敷き、縮減に取り組んでおり、4月以降は同センターへの専任医師の採用も考えていると回答しました。また、心臓血管外科も現在5名の新任を採用し、スキルアップのなかで徐々に時間外労働縮減を行っていくとしました。さらに、医師の職務を軽減するため、診療報酬の加算も考慮して、看護助手20名程度、医療クラークの増員計画があると回答しました。なお、専門性の観点から応援できない領域もあり、課題はまだあるとも回答しました。

こうしたなかで病院では特命担当の副病院長をトップとする負担軽減のワーキングを1月に立ち上げていること、働き方改革で上限規制が月100時間となっていることもあり、時間外労働縮減の実施については今後進めていくことを確認しました。



### ■ 各種手当での改善について

－コメディカルの手当は診療報酬の改訂状況をみながら検討、更衣室は早急に対応－

#### ①医療技術業務手当を支給すること

②医療技術職員に専門技師・認定技師手当を支給すること  
医療技術職員（コメディカル）に対して、他大学で支給されている医療技術業務手当といった職務手当や専門技師・認定技師手当といった資格手当を支給するよう要求しました。

病院長は、現在コメディカルのスキル向上に対しては研修費（個人単位で分配）があり、手当をつけると逆に研修費に影響することも考えられることや、医師も多様な資格を持っており、こうしたものも手当の対象となってしまうことになり、厳しい人件費のなかで現時点では難しいと述べました。社会情勢が変わってくれば、今後はインセンティブ経費として考えることがあるかもしれないが、人件費が厳しいなかであり困難であるとしました。

組合は、インセンティブの効果が高いこと、他大学で手当化が進んでいることから今後も検討を要請しました。また、手当が困難ならば、暫定的に研修費の増額も方法であることを述べました。

病院長は、資格取得だけでは診療報酬が上がらないことや、今後の診療報酬改定の動向で変わってくることを説明して、今後の検討課題とすると回答しました。

#### ③医療技術職員に看護職で提供されている程度の更衣室を確保すること

福利厚生面の問題として、医療技術部の更衣室の整備が遅れているところがあることに対して指摘を行ったところ、当該箇所については空きスペースを活用し

て早急に整備を進めるという回答がありました。

#### ④放射線部に勤務する看護師に手当を支給すること

放射線部で働く看護師の放射線取扱手当の支給を昨年に続き要求しました。

病院長からは、放射線部に一律適用となると業務内容で被爆の危険性も異なり、看護職のなかで不平等感が生じるので、現行（被ばく量に応じて支給）でいく方がよいと考えていると回答しました。

組合は不平等感のない手当にするにはどうすればよいか再度提案をしたいと伝え、今後の課題としました。

### ■ オリエンテーションについて

組合活動を知ってもらうため、オリエンテーションでの組合紹介時間を、現在の15分から延長するように求めました。しかしながら、病院も行事が詰まっております延長は難しいとの回答がありました。

### ■ 組合事務室の設置について

挟間地区での円滑な組合活動を保証するよう、また、相談のプライバシーにも配慮できるようなスペースの確保に向けて検討するよう要求しました。

病院長からは、今のところ場所の確保は難しいという回答がありました。

昨年組合掲示板を職員の休憩室内に1つ増設できました。また、看護師・医療技術職オリエンテーションの組合説明を聞いて、組合に加入してくれた新人さんもあり、今後も組合員からの声をふまえた活動のなかで、組合活動の拠点づくりの要求を前進させていければと考えています。

## オリエンテーションでの組合紹介

4月2日に挟間地区において教職員組合オリエンテーションを行いました。組合から委員長他7名が参加しました。本年度のオリエンテーションは、看護師、医療技術職員等100名の参加がありました。委員長挨拶の後、副委員長がスライドを使って約10分間、組合の役割やこれまでの取り組みの成果、より働きやすい職場



を目指して法人と交渉を行っていること等を紹介しました。組合紹介の後にも予定が組まれており、限られた時間でしたが、参加者のみなさんは熱

心に話しを聞いてくださいました。労働条件のさらなる改善に向けて多くの加入をお待ちしています。



## 教員部会を開催しました

### 「大分大学の『ちょっとおかしいんじゃないの?』と一緒に語る会」

2月7日に「大分大学の『ちょっとおかしいんじゃないの?』と一緒に語る会」というテーマで教員部会を開催しました。

第一部では、若手教員3人から興味深い問題提起をいただきました。Aさんからは、研究費配分や会議への参加などに見られる助教の位置づけへの疑問と全大教中執で関わっている有期雇用教員の問題が提起されました。Bさんからは、研究費の使い方や入試などの学内業務のスケジュールが前もってわかりにくいなど、大学赴任時の困りを具体的に提示していただきました。また、教授会自治への無関心が広がっているのではないかという問題提起も多くのご共感を得ました。Cさんからは、学部での優れた取り組みはあるのに大学全体として有効にまとめアピールできていないこと、それとの関連で大分大学のビジョンが見えず長期的・継続的な取り組みができていないことが問題だという指摘がありました。また、教育に対する評価について、積極的な取り組みに対してはもっと踏み込んで評価してよいのではないかという提起もいただきました。

第二部では、会場全体で協議を行いました。話題の中には部局固有の問題もあるものの、全体としてそのような問題に声を上げ改善を図っていこうという意識の醸成が必要であるという点で合意できました。

全体として、大分大学の教員が共有できる問題や意識は今でも多くあり、それだけに情報共有や協議の場を確保する必要性を強く感じる充実した教員部会になりました。